

政務活動費支出命令書(会派支出)

新友会

会派名

支払日	✓ 令和 7年 8月 12日			
支払先	金沢敦志／青木敏明／西沢利一／西脇かおる／箱山正一／松田光平／市川和彦／手塚秀樹			
活動に要した経費	使 途 区 分	経費の内訳、算出根拠等		金 額
	(該当項目に○)	旅 費	R7新友会視察(8/18～19) 日本旅行手配済分(JR切符・宿泊代)	285, 870円
	研究研修費		振込手数料	880円
	調 査○旅 費			
	資料作成費			
	資料購入費			
	広報・広聴費			
	人 件 費			
	事務所費			
	その他の経費			
合 計				286, 750円
(領収書添付欄)				
※視察参加者8名の内「西沢議員、手塚議員、西脇議員」の3名は8/18のみ参加(日帰り)				

振込金受取書(兼手数料受取書)

電信扱

収入印紙

1. 現金の小切手
200円貼付
2. 福祉請求書
5万円未満非課税
非課税
3. 自己と本人あての贈
与はすべて200円貼
付

株式 八十二銀行

4200②

発行日 : 2025年08月08日
請求No. SDN-4531-2025-00122

長野市議会新友会 御中

請求書 INVOICE

株式会社 日本旅行 長野支店
登録番号 : T1010401023408
〒380-0821
長野県長野市上千歳町1-1-3-7-2 3
リアライズ長野ビル1階
TEL : 026-232-6152
FAX : 026-232-4526
支店長 : 臺 容之
担当者 :



今般は、当社をご利用いただき誠にありがとうございました。
下記の通りご請求申し上げます。
今後とも弊社をご愛顧くださいますようお願い申し上げます。

出発日	帰着日	団体名/方面	人員	ご旅行代金等 (円)	お預かり金額 (円)	ご請求金額 (円)
08月18日	08月19日	長野市議会新友会/福井・長岡方面	8 名	285,870	0	✓ 285,870
10%対象合計 (円)	内消費税額 (円) (10%対象)	8% (軽減税率) 対象合計 (円)	内消費税額 (円) (8%軽減税率対象)	免税事業者10% 対象合計 (円)	免税事業者8%軽減 税率対象合計 (円)	対象外合計 (円)
285,870	25,988		0			

月日	摘 要	数量	単価	金額	税区分等	備考
08/18	宿泊代 (ホテルフジタ福井) シングル朝食付	5	10,780	53,900	10%	
08/18	JR代金 (長野→福井)	7	11,720	82,040	10%	
08/18	JR代金 (篠ノ井→福井)	1	11,720	11,720	10%	
08/18	JR代金 (福井→長野)	3	11,720	35,160	10%	
08/19	JR代金 (福井→長岡)	5	12,710	63,550	10%	
08/19	JR代金 (長岡→長野)	5	7,860	39,300	10%	
19	JR代金 (長野→篠ノ井)	1	200	200	10%	

注) 税区分等欄の「8%※」は軽減税率対象、「免税10%」は免税事業者にかかる対象、「免税8%」は免税事業者にかかる軽減税率対象

【お振込先】 : みずほ銀行 普通
【口座名義】 : 株式会社 日本旅行

2025年08月12日 までにお支払い願います。
※恐れ入りますが、振込手数料はお客様ご負担にてお願い申し上げます。

発行日 : 2025年08月12日
No. SSR-4531-2025-00250

長野市議会新友会 様

領 収 証 RECEIPT

株式会社 日本旅行 長野支店
Nippon Travel Agency Co., Ltd.
登録番号 : T1010401023408
〒380-0821
長野県長野市上千歳町 1-1-37-23
リアライズ長野ビル1階
TEL : 026-232-6152
FAX : 026-232-4526
支店長 : 臺 容之
担当者 :

印紙税申告納
付につき日本橋
税務署承認済

下記の金額を正に領収いたしました。

金 額							
¥285,870							
10%対象合計	内消費税額(10%)	8% (軽減税率) 対象合計	内消費税額(8%)	免税事業者10% 対象合計	免税事業者8% 軽減税率対象合計	対象外合計	預り金合計
285,870	25,988		0				
月 日	品 名					金 額	税区分
08/18	ご旅行代金 (福井・長岡方面)					285,870	10%

注) 税区分等欄の「8%※」は軽減税率対象、「免税10%」は免税事業者にかかる対象、「免税8%」は免税事業者にかかる軽減税率対象

<<支払種別>>
【現金】 : 0
【小切手】 : 0
【振込】 : 285,870
【クレジット】 : 0
【日本旅行ギフト券】 : 0
【日本旅行ギフトカード】 : 0
【ドリーム旅行券】 : 0
【デビットカード】 : 0
【他社ギフト券】 : 0
【自治体補助券】 : 0
【他社ポイント】 : 0
【企業旅行引換券・契約保養所】 : 0
【QRコード決済】 : 0
【コンビニ決済】 : 0

政務活動費支出命令書(会派支出)

新友会

会派名

支払日	✓ 令和 7年 8月 14日			
支払先	金沢敦志／青木敏明／西沢利一／西脇かおる／箱山正一／松田光平／市川和彦／手塚秀樹			
活動に要 した経費	使 途 区 分	経費の内訳、算出根拠等		金 額
	(該当項目に○)	旅 費	R7新友会視察(8/18～19) 旅 費(JR切符代等)	39,000円
	研 究 研 修 費			
	調 査 旅 費			
	資 料 作 成 費			
	資 料 購 入 費			
	広 報 ・ 広 聴 費			
	人 件 費			
	事 務 所 費			
	その他の経費			
合 計				39,000円
(領収書添付欄)				
※視察参加者8名の内「西沢議員、手塚議員、西脇議員」の3名は8/18のみ参加(日帰り)				

新友会 政務活動行政視察(No.1)

令和7年8月18日(月)、19日(火)

<最繁忙期>

旅 費 額 明 細

JR福井駅

JR長岡駅

<福井市役所>

<信濃川大河津資料館>

<にとこみえーる館>

鉄 道 船 賃	行 先	自 長野	經由	經由	經由	經由	至 福井	運 賃	グリーン料金
	路 程	304.0 km	km	km	km	km	304.0 km	5,500 円	0 円
	急行 料金	特別職 6,220 円	円	円	円	円	計 6,220 円	小計 特 11,720 円	
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円	
	行 先	自 福井	上越妙高 經由	經由	經由	經由	至 長岡	運 賃	グリーン料金
	路 程	244.5 km	83.4 km	km	km	km	327.9 km	5,840 円	0 円
	急行 料金	特別職 4,460 円	2,410 円	円	円	円	計 6,870 円	小計 特 12,710 円	
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円	
	行 先	自 長岡	上越妙高 經由	經由	經由	經由	至 長野	運 賃	グリーン料金
	路 程	83.4 km	59.5 km	km	km	km	142.9 km	2,650 円	0 円
	急行 料金	特別職 2,410 円	2,800 円	円	円	円	計 5,210 円	小計 特 7,860 円	
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円	
	行 先	自	經由	經由	經由	經由	至	運 賃	グリーン料金
	路 程	km	km	km	km	km	0.0 km	円	0 円
	急行 料金	特別職 円	円	円	円	円	計 0 円	小計 特 0 円	
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円	
	行 先	自	經由	經由	經由	經由	至	運 賃	グリーン料金
	路 程	km	km	km	km	km	0.0 km	円	0 円
急行 料金	特別職 円	円	円	円	円	計 0 円	小計 特 0 円		
一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円		
行 先	自	經由	經由	經由	經由	至	運 賃	グリーン料金	
路 程	km	km	km	km	km	0.0 km	円	0 円	
急行 料金	特別職 円	円	円	円	円	計 0 円	小計 特 0 円		
一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円		
行 先	自	經由	經由	經由	經由	至	運 賃	グリーン料金	
路 程	km	km	km	km	km	0.0 km	円	0 円	
急行 料金	特別職 円	円	円	円	円	計 0 円	小計 特 0 円		
一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円		
								計 特 32,290	
								—	0 円
車 賃	自 至	円	自 至	円	計	円			
航空 賃	自 至	円	自 至	円	計	0 円			
日 当	定額1日	3,000 円	2.0 日	計 特	6,000 円				
宿泊 料	定額1日	円	日	—	0 円				
食 卓 料	県内(県外) 定額・指定1夜	円	1 夜	計 特	実費	円			
	県内・県外 定額・指定1夜	円	夜	—	円				
備 考	☒ 宿泊料は、一夜 定額14,800円(特別職)を上限とする実費。 ☐ 高級旅費(条例第22条) ☐ 調整(条例第24条第4号適用)							合計	38,290 円
									円

書 訳 内 払 支 合 集

[illegible]

合計 191,650

JR代金 @ ¥32,290

JR代金
※松田議員のみ

'@ ¥32,490
(長野⇒篠ノ井)+200円

日当@3,000×2日 @¥6,000

集 合 支 払 内 訳 書

事 由	氏 名	旅費受領額（円）	支払日
新友会有志による行政視察 （令和7年8月18～19日）	西沢 利一	26,440	8月14日
福井市・新潟県視察	西脇 かおる	26,440	8月14日
	手塚 秀樹	26,440	8月14日

合計 79,320

JR代金(往復) @ ¥ 23,440

日当@3,000 @¥3,000

政務活動費支出命令書(会派支出)

新友会

会派名

支払日	✓ 令和 7年 8月 14日			
支払先	八幡屋磯五郎 MIDORI長野店			
活動に要 した経費	使 途 区 分	経費の内訳、算出根拠等		金 額
	(該当項目に○)	事 務 費	R7新友会視察(8/18~19) 視察先手土産代	3, 240円
	研究研修費			
	調査旅費			
	資料作成費			
	資料購入費			
	広報・広聴費			
	人件費			
	事務所費			
	その(他)の経費			
合 計				3, 240円
(領収書添付欄)				



根元 八幡屋磯五郎

八幡屋磯五郎 MIDORI 長野店
長野県長野市南千歳1-22-6
TEL: 026-219-6034

2025年 8月14日(木) 11:56 No:0001

4962968070968

0165オマージュ

単648× 5個 内 ¥3,240

小 計		¥3,240
8%対象額	8.00%	¥3,240
8%内税額	8.00%	¥240
合 計		¥3,240
(内消費税等)		¥240)

クレジット	¥3,240
(消費税等)	¥240)



A2025081400017647A

登録番号 T7100001004958

責No:00000001:

取引No7647 5点買



根元 八幡屋磯五郎

八幡屋磯五郎 MIDORI 長野店
長野県長野市南千歳1-22-6
TEL: 026-219-6034

2025年 8月14日(木) 11:56 No:0001

4962968070968

0165オマージュ

単648× 5個 内 ¥3,240

小 計		¥3,240
8%対象額	8.00%	¥3,240
8%内税額	8.00%	¥240
合 計		¥3,240
(内消費税等)		¥240)

クレジット	¥3,240
(消費税等)	¥240)



A2025081400017647A

登録番号 T7100001004958

責No:00000001:

取引No7647 5点買

令和7年 新友会視察

福井市・新潟県(8月18日～19日)

<視察先>

福井市内視察

担当者:福井市役所議会事務局

庶務課 西川様

視察事項「福井駅前再開発事業について」

行政視察報告書 (No.1)

令和 7年 8月 24日

代表者 寺沢 さゆり様

報告者氏名 (代表) 青木 敏明

次のとおり、視察をしましたので関係書類を添えて報告いたします。

1. 視察者氏名

西沢 利一	松田 光平	市川 和彦	手塚 秀樹
金澤 敦志	箱山 正一	西脇 かおる	青木 敏明

2. 視察期間

令和 7年 8月 18日 ～ 令和 7年 8月 19日

3. 視察先・視察事項・選定理由

視 察 日 時	視 察 先	視 察 事 項 及 び 選 定 理 由
令和7年8月18日 13時30分～16時00分	福井市再開発事業	本市の駅前 B1 地区再開発事業の参考とすべく 福井駅前 A・B 街区の再開発事業について視察
令和7年8月19日 13時30分～16時00分	新潟県・燕市 大河津資料館 にどこみえーる館	令和の大改修中の大河津分水路「新2床固」・大河 津分水路資料館を視察し、信濃川水系の治水対策 の歴史と現状を視察

行政視察報告書 (No.2)

報告者氏名 青木 敏明

※視察参加者必須

視 察 先	視察結果 (参考となった事項、考察)
福井市 駅前再開発事業 A・B 街区	新幹線 福井県・敦賀延伸決定を機に、福井駅前の再開発事業の機運が高まった。
	2024 年 3 月北陸新幹線の福井延伸開業。 駅前の盛り上がりを見せている。
	福井市は福井県の北部に位置し、県庁所在地。人口約 25 万人の長野市と同じ中核市である。
	福井市内では3つの街区で再開発事業が行われている。そのうちの福井駅前電車通り北地区 A 街区・B 街区を視察した。
	通称三角地帯と呼ばれるエリアで、当初は三角地帯を一つの再開発組合で再開発予定であったが、地権者の考え方の相違により、A 街区・B 街
	の 2 つの組合に分かれて再開発事業が進められた。
	A 街区は「FUKUMACHI BLOCK」とし、地上 28 階、地下 1 階の複合ビル高さ 130メートル。施工面積は約 1.3ヘクタール。
	駅前のシンボリック建物となっている。
	商業施設、マンション、外資系ホテル、オフィス等が入る。マンションは全 224戸。投資目的での購入者も多い。
	B 地区は三角地帯の西側に位置し、地上 10階・地下 1 階の複合ビル。面積約 0.6ヘクタール、高さ 33メートル。
	商業施設、医療福祉施設、分譲マンションが入る。事業費の高騰により事業計画を見直し、採算がとれる建物へ変更。戸数を増やした。
	《 考 察 》
	特に A 街区の再開発事業は、福井駅前周辺地域の活性化に寄与する。3階から 12 階までは、「イニシアグラン福井タワー」13階から 28 階ま
	で「ザ・福井タワースカイレジデンス」にわかれ、低層階の「イニシアグラン福井タワー」は総戸数 106戸で、アクティブシニア向け分譲マンション。「ザ・福井タワースカイレジデンス」は 118戸で高層階
	は 1 億円を超える。15 階から 28 階は、アメリカに本拠地をおくホテル大手のマリオットインターナショナルが進出している。全 252室。
	今後のインバウンド需要にも対応するホテルで、観光客が集まるホテルとなることが期待されている。
	建物真ん中を市道が通るつくりで、道の両側には飲食店や物販店が並ぶ。また周辺道路には、イベント時にキッチンカーが駐車するように電源排水設備も完備するつくりを社会実験で施工している。

新潟県・燕市 大河津資料館	燕市・大河津資料館では北陸地方整備局 信濃川河川事務所 計画課 横山課長により、大河津分水路の歴史や役割について説明を受ける。
	特に、大河津分水の歴史は、我が国の土木技術の歴史でもあり、大変興味深い展示があり、信濃川の氾濫と戦い、治水に努力してきた地域の歴史を知ることが出来た。
	「概 要」
	信濃川の流量を減らし、氾濫や堤防の決壊を防ぐために江戸時代から計画があったが、1907年に本格的に工事が始まり、1922年に通水
	1931年の補修完了により安定稼働。全長9.1キロメートル。大河津分水路完成により、完成前303年間で、信濃川下流域での水害発生
	回数は106回。完成後93年間で12回と激減している。また、大河津分水路により米の収穫量が飛躍的に伸び、新潟が米どころ誕生した。
	令和元年東日本台風災害時も大河津分水路の機能が発揮され、新潟市内での大きな災害は発生しなかった。
	現在大河津分水路は令和の大改修事業が進められている。2032年の完成を目指し、山地部及び水路の拡幅と第二床固を改修し、新第二床固
	野積み橋の架け替え工事等が行われている。総事業費 1,200 億円。
新潟県・長岡市 にとこみえ〜る 館	
	《考 察》
	越後の守り神とも称される大河津分水路も令和4年に100周年を迎え河床の低下や近年の異常気象、令和元年東日本台風災害時の満水状況を
	考えると、河口部分の拡幅が必要であり、大幅な山復の掘削と第二床固の修復に伴い、新第二床固による令和の大改修が行われていることは、
	上流域に暮らす者にとっても安全・安心につながる事業。
	大河津分水路の大改修完了により、上下流のバランスをとりながら、更に信濃川水系緊急治水対策プロジェクトが進捗し、治水対策が図られる
	よう期待する。

行政視察報告書

報告者氏名 金沢 敦志

月 日	視 察 地 (市町村名等)	考 察 (所感、課題、提言等)
令和 7 年 8 月 18 日 (月)	福井県福井市	説明者「福井市 都市政策部 都市整備課」 長野市では「長野駅前B-1地区第一種市街地再開発事業」や「もんぜんぷら座敷地の利活用」等中心市街地の再開発事業が計画、進行するなかで、再開発事業の参考例となる「福井駅周辺のまちづくり」について福井市に伺ってきた。 福井市は第2次世界大戦1945年に福井空襲があり、市中心部に大規模な戦災あったうえ、1948年にはマグニチュード7.1という大震災である福井地震があり、火災も発生しそれに追い打ちをかけるように豪雨水害と大きな被害があった。そのため、防災の視点から災害後に道路の拡張や防災事業も行ってきた。 しかし、戦災、震災から80年近くが経過し、戦災復興土地区画整理事業にあわせて建設された建築物の多くが更新時期となった。 加えて、福井市では北陸新幹線延伸に伴い、古くから県都福井の中心地として発展してきた駅および駅周辺を整備する必要があるため、「福井駅・城址周辺地区市街地総合再生計画」を平成30年に策定し実行してきた。ただ、再生計画の実行では一部変更の必要もあり、柔軟に対応してきた。以下、調査の概要である。 ・駅前のバス乗降場、路面電車電停、タクシー・自家用車乗降場がバラバラで離れており、不便であった。そこで西口駅前に広場を設置するとともに、バス乗降場、路面電車電停、タクシー乗降場を隣接させ、さらに長距離路線バス乗降場と観光バス乗降場も新設した。以前より市民からこれらの乗降場がはなれており、非常に不便だとの意見があったが、この改良事業によ

	って市民および観光客に対して交通利便性をかなり改善させたと思われる。 ・ 福井市内には路線を持つ民間鉄道である「えちぜん鉄道」と「福井鉄道」があるが、地域公共交通の利便性の改善として、両民鉄同士の相互乗り入れを行った。田原町駅に両鉄道が相互乗り入れのプラットフォームを構築。年間の利用者数の推移を見た限り、相互乗り入れの効果はあったと思われる。 ・ 市街地再開発事業では、土地区画整理事業と一体となった再開発を目指すため、市街地再開発組合を設立した。公共公益施設と民間施設が一体となった都市型複合施設の建設となった。県都の玄関口にふさわしい「にぎわい交流拠点」の形成を図るため、民間の活力を導入した結果、多額の投資を呼び込むことに成功している。 ・ 市街地再開発事業では7事業の優良建築物事業が進行している。そのうち、4事業が完了、3事業が施行中である。その事業で手寄地区の事業（愛称アオッサ）は総事業費約111億円、福井駅西口中央地区の事業は総事業費約111億円、北地区A街区市街地再開発事業は約449億円、同B街区市街地再開発事業は約49億円、南通り地区市街地再開発事業は約170億円等々、多額の民間からの投資が行われ、確実にまちのにぎわいや景気に貢献されていると思われる。 ・ 本再開発事業では民間から多額の投資がされましたが、それには官民の協働が行われ、地権者や市民から意見聴収、合意形成があつての前提ですが、事業規模が大きいためかなりの時間と労力が必要であつた。なお一部の区画においては区画を分けて事業計画を進行せざるを得ない事業もあつた。 ・ 事業おいては、国内で多くの化石が発掘される福井の宣伝のため駅前に恐竜のロボットや模型の設置。福井市観光交流センターの設置によるインバウンド、観光客の対策。駅前のハピテラス（屋根付き広場）を設置し、様々な市民団体や企業が利用することによる駅前地区のにぎわいの創出。同ビルに外資系ホ
--	--

8月19日 (火曜)	新潟県燕市 新潟県長岡市	テルの進出とオフィスフロア、カンファレンスフロアを配置することにより利便性を高める。一般分譲マンションとシニア向け分譲住宅の建設等、様々な機能を持った施設を同一区画に配置することにより、区画の利便性とともに加価値を高めている。 ・この事業の履行のためには、民間事業者から巨額の投資資金が必要である。それには事業計画が魅力のあるものであり、かつ地権者や市民の合意が必要であるが、その意見調整には行政が重要な役割となる。意見調整と合意にはかなりの労力と時間が必要であるが、本事業において市行政の努力に敬意を表したい。 説明者「国土交通省 北陸地方整備局 信濃川河川事務所 計画課 課長 横山貴宏」 視察場所 信濃川大河津資料館 (燕市五千石) にとこみえーる館 (長岡市寺泊) 同地区 工事現場 信濃川下流においては古くから度々洪水、水害が発生しており、江戸時代から分水路建設の請願があったが、実現しなかった。明治時代に入った1870年に第1期大河津分水路工事が開始されたが、技術的な問題や地元の負担、下流での反対があり、工事は中断となった。しかしその後の1896年(明治29年)、現燕市横田において「横田切れ」と呼ばれる信濃川の破堤による空前の大水害が発生し、分水路の必要性が改めて議論された結果、1896年に第2期大河津分水路工事が着手された。 当時は国家的な大事業であったが、工事中には3回もの地滑りが発生するなど、大変な難工事であったが1922年に分水路は通水、着工から28年後の1924年に竣工式が行われた。通水後の
-----------------------	-------------------------	---

	1927年に分水路の川底が掘られ自在堰の基礎下部に空洞が生じ陥没、補修工事がおこなわれ1931年に完成した。 2022年は通水100周年、「第二床固」は完成から90年余りが経過し、コンクリート等の耐久年数も限界に近づいており、老朽化が進んでいる。大河津分水路の河床低下リスクは生じ続けており、第二床固が倒壊した場合、上流で地すべりが誘発される可能性があり、河床安定性の確保が急務。 近年、過去の記録を上回る豪雨が発生しており、特に2019年の東日本台風（台風19号）による信濃川の上流の上田市、長野市、小千谷市、長岡市で、橋梁の破損や堤防の決壊、浸水等の甚大な被害が発生した。大河津水位観測所では、堤防決壊の恐れのある「計画高水位」を約10時間も超過する大変危険な大洪水となり、河道の拡張等の改修の必要性が高まった。 当初の河川整備計画（平成26年策定）における目標洪水規模を、令和元年東日本台風の洪水が上回った。そこで、更なる治水安全度向上の為、河川整備計画を変更する必要性が生じ、令和4年12月に計画を変更した。 変更された「令和の大改修」と言われる信濃川河川改修事業（大河津分水路）事業は、燕市から長岡市に至り、放水路の拡張（山地部掘削、低水路掘削、第二床固改築、野積橋掛替等）を2015年から2038年の24年間に渡って行うものである。総予算は物価上昇に伴い増額され、現在では1700億円が計上されている。まさに「令和の大改修」である。 大河津分水路の令和の大改修において、現在の工事で課題、難所となっている工事は、河道拡張のための左岸山地部掘削、低水路と泊地の整備、新第二床固の新設であるが、当地域の地
--	--

		盤は河口付近で地盤が軟弱、地層が傾斜している部分があり不安定、増水期には多量の水量となるため、厳しい条件下での作業となる。 特に新第二床固は、河床が軟弱なため、巨大な鋼殻ケーソンを九州で製作し、台船に載せて新潟まで運ぶ、その後に曳航させたケーソンを設置、コンクリートを打設し、床固とする。巨大なケーソンの施工は難工事。 左岸の山地部掘削は、地層が傾斜しているうえに、地盤が予想以上に軟弱であったため慎重な工事が求められる。右岸の山地部ではかつて土砂崩れが発生しており、同様に慎重な工事が必要である。掘削量は約1,000万立米と東京ドーム約8杯分と膨大な量。掘削土は、堤防整備や地元自治体等の関係機関が実施する事業で有効利用している。 当改修事業は、当初の計画を履行中に想定以上の増水と被害が発生し、計画を変更せざるを得ない状況となった。予算も人件費や部材費等の高騰があり、増額する必要があったが、予算を獲得した。 これだけの大事業を推進するには、当該地区だけでなく、流域市町村や県が連携して国に要望し、現実化する必要があった。その計画立案と事業の実行プロセスは非常に参考となった。
--	--	---

行政視察報告書 (No.2)

報告者氏名 手塚秀樹

※視察参加者必須

月 日	視 察 先	視察結果 (参考となった事項、課題、考察等)
8/18	福井市	福井駅前再開発事業 (市街地再開発事業) 都市政策部 都市整備課 【説明概要】 市街地再開発事業エリアを含む駅周辺地域 (約 66ha) を平成 30 年に内閣府から都市再生緊急整備地域として認定を受けている。 その内の 58ha を市街地総合再生計画地域としている。 これは江戸時代の越前福井藩の城郭の範囲とほぼ一致する。 1945 年の福井空襲、1948 年の震度 7 の福井地震により市街地の多くが被災したが直後から土地区画整理事業に取り組んできた。 2024 年北陸新幹線福井駅開通に向けた事業は以下の通り。 ・福井駅付近連続立体交差事業 (福井県施行) JR 北陸本線、北陸新幹線、えちぜん鉄道の高架化による交通環境の整備 ・福井駅周辺土地区画整理事業 (福井市施行) 西口・東口の既存駅前広場をそれぞれ 2 倍強に拡張し、併せて周辺道路整備 バス乗降場、路面電車電停を西口広場まで延伸し、交通の乗り継ぎの利便性向上 ・地域公共交通の連携 えちぜん鉄道と福井鉄道の民間事業者同士の相互乗り入れ運行区間の整備 ・福井市観光交流センター整備 観光案内所のほか、カフェ・休憩スペースなどの設置 市街地再開発事業 ・優良建築物等整備事業 民間による再開発事業で 7 つの事業 主に中心市街地に集合住宅の整備を行う ・市街地再開発事業 (法定) 7 事業 完了した 4 事業の一部 ○アオッサ (駅東口 手寄地区) 民間・県・市の三者が床保有 駅前という場所柄から市保有部分には図書館を設置

月 日	視 察 先	視察結果（参考となった事項、課題、考察等）
		○パピリン（駅西口 中央地区） 民間・市の二者が床保有 福井市の天候を考慮した屋根付半屋外広場や観光物産館の市有施設の他、88戸の集合住宅 これらの整備効果として来街者ご増加傾向となり、特に休日の来街者が平日を上回るという整備前とは逆転現象が起きている 現在施行中の3事業 ○福井駅前電車通り北地区A街区市街地再開発事業 令和6年5月竣工だが新幹線開通に合わせホテルは先行して3月開業 分譲住宅224戸 ○福井駅前電車通り北地区B街区市街地再開発事業 令和8年3月完成予定 分譲住宅62戸 ○福井駅前南通り地区市街地再開発事業 令和11年完成予定 分譲住宅109戸 ホテル170室 【考察】 事業中の3事業も含む14の再開発事業の成果として、まちなかに住宅約860戸、ホテル客室数約910室、駐車場約1,540台が確保できるわけである。 コンパクトなまちづくりであり、それぞれの施設が商業施設と図書館、多目的ホールと屋根付屋外広場、分譲住宅と医療・福祉施設などの特徴を持った複合施設であることはよく考えられた事業であると思う。 再開発事業であることから、セットバックによる快適な歩道空間も確保されている。 福井市の考え方である、中心市街地の活性化効果を周辺地域にも影響を与えていくという明確なコンセプトを感じた。 新幹線開通を契機に民間主体によるまちづくりを目指そうと、令和2年に福井商工会議所、福井県、福井市などが一体となって「県都にぎわい創生協議会」を発足させたことが推進力となったのだろう。 令和4年には県都グランドデザインの策定を行い、目標年次を2040年とするまちなかの将来像を示し、県都リノベーションの基本方針まで示めされている連携の強さがあるのだろう。 今回の視察において確認したい事項に官民の連携があった。 これは本市における長野駅前B-1地区第一種市街地再開発事業の取組みがあり多くの関心を寄せられているからである。 それに対しては以前より民間施設の空きスペースに行政の機能が入るなど市民においても官民が融合しているようにもとらえられ、平成19年に完成している民間・県・市の三者連携のアオッサなどの経験も豊富

月 日	視 察 先	視察結果（参考となった事項、課題、考察等）
		であることで市民理解が進んでいるのであり、再開発の合理性を十分理解されていることが確認できた。 創生協議会については三者のうちどこがリーダーシップをとっているわけでもないが、新幹線開通という共通の目的が推進力となったという。その点ではこの連携について継続性を持っていけるかが一つの課題という。 本市の再開発については、再開発事業の合理性と市域への好影響の波及の説明を丁寧に行っていく必要があると感じた。 以前から提案しているもんぜんぶら座の再整備にあっては、民間・県・市の三者による事業となること、新田町交差点の面的整備が再開発事業として行われることを強く望む。

行政視察報告書

報告者： 西沢 利一

月 日	視 察 地 (市町村名等)	考 察 (所感、課題、提言等)
8月18日	福井県福井市	【福井駅周辺のまちづくり】 福井駅周辺及び福井城跡周辺は、古くから県都福井の中心地として発展してきた。昭和20年7月の福井空襲により、市街地の95%が被災。昭和21年4月に「戦災復興土地区画整理事業による復興計画案を決定。昭和23年6月福井地震により、全戸数の95%が被災。計画策定が完了していた戦災復興土地区画整理事業を引き継ぐ形で、直ちに震災復興に着手し、事業完了後も、行政が主体となり、都市基盤の再整備や都市機能の更新を進めており、多くは、国体の開催や北陸新幹線福井開業を見据えて整備を行ってきた。 また、戦災・震災から約70年が経過し、建物の多くが更新時期を迎えていることから、市街地の再整備を進めてきた。 福井駅付近連続立体交差事業 福井駅周辺土地区画整理事業 駅前広場の再整備 地域公共交通の相互乗り入れ 新幹線駅と観光交流センター 市街地再開発事業など、それぞれ特徴ある事業推進に努められている。 【考察】 戦災、震災を3年間の間に受け、ほとんど何もないところからのスタートとなったことから、前段で述べたように、特徴ある開発事業が推進されている。当初の交差点から立体交差に、駅前広場の再整備、新幹線駅に観光センターを整備することで、福井市の本気度が見える。優良建築物の整備により、市街地の再開発がさらに進む、広場空間の整備を進めることで、交流人口増が期待できる、空き店舗を集合リノベーションし次のお店に変換など、福井市をさらに盛り上げるようになっていく。 加えて、福井県が力を入れている恐竜についても、駅周辺に恐竜を配置することによって、駅に降り立つ観光客にまず目でお知らせできることは、本市でも今後参考にすべき事項と感じた。

令和7年 8月26日

新友会 会長 寺沢さゆり 殿

総務部会 箱山正一

新友会 建設企業部会&総務部会 視察報告書

この度、行政視察をしましたので、その概要について下記のとおり報告いたします。

記

- 1 視察区分 建設企業部会&総務部会 合同視察
- 2 視察者氏名 【建設企業部会】金沢敦志 青木敏明 本木晋 西脇かおる 西沢利一
【総務部会】市川和彦 松田光平 手塚秀樹 箱山正一
※西脇、西沢、手塚は8/18(月)のみの視察
- 3 随行者 なし
- 4 視察期間 令和 7年 8月18日(月)～令和 7年 8月19日(火)
- 5 視察先及び視察事項
【視察先①】
・福井駅前再開発事業について(8/18)・・・福井市役所、福井駅前視察

【視察先②】
・令和の大改修について(8/19)・・・信濃川大河津資料館 視察

【視察先③】
・令和の大改修について(8/19)・・・にどこみえーる館 視察
- 6 視察概要
【視察先①・8月18日(月)】・・・福井市役所、福井駅前にて

福井駅前再開発事業について

【福井市概要】(令和7年8月1日 現在)
・人口 252,572人(福井県全体の約1/3)
・世帯 109,216世帯
・面積 536.41平方キロメートル(福井県全体の約13%)
※東京23区面積 627.51平方キロメートル
・平成31年4月に中核市に移行

【事業の経緯と過程】

- 1) 2023年北陸新幹線福井開業
- 2) 集約型都市構造への転換が必要
- 3) 戦災、震災から約70年が経過。戦災復興土地区画整理事業が実施された本地区内では、この事業に合わせて建設された建物の多くが一斉に老朽化。
→都市機能の更新が急務となる

【取り組み状況】

- 1) 地区の再整備が進まないと・・・
・都市の競争力強化や都市の再生が実現できないだけでなく、都市活動における安心・安全が確保されずに、都市中心部の災害リスクが上昇。
→将来において、経済的、社会的な損失の発生が懸念される状況
- 2) 市街地を再整備するためには・・・
・市街地再開発事業などの事業手法活用し、官民が連携し計画的に、良好な市街地環境の形成を進めていくことが必要
→福井駅・福井城址周辺地区市街地総合再生計画（平成30年1月～10年間の計画）
※2018年～2027年

【効果】

- 1) 建築物の整備に関する方針
 - ① 都市機能の集約化と複合化
 - ② 魅力あるまち並み、歴史が感じられるまち並みへの更新
 - ③ 活気やにぎわいが感じられる空間の形成
 - ④ 災害に強い建築物の整備
- 2) 地区の施設及び公開空地等の整備に関する方針
 - ① 市街地の防災性の向上に向けた道路の整備
 - ② 水と緑のうるおいが感じられる空間の形成
 - ③ まち歩きしたくなる歩行環境づくり
 - ④ 駐車場・駐輪場の適正確保

→結果、整備中の事業含めて

- ・14事業
- ・住宅（マンション）約860戸
- ・ホテル910室
- ・駐車場1,540台の整備となった

これらにより主に行政では、福井駅前広場の整備として、路面電車の電停やバス停移設により、交通結節機能の強化、西口、東口での市街地再開発事業による都市機能の集約が実現できた。さらに、行政の動きに合わせて、民間による市街地再開発事業も推進され、公共空間のリノベーションと利活用（歩道ふくむ道路、公園、河川等）が進むこととなる。民間プレーヤーの育成（ふくみち・ふくまち大学等）も活発となる。

【所 感】

・オリンピック前の長野市を見ているような開発が福井駅前中心に広がり、新幹線の延伸の効果というか、チャンスはこのタイミングで図り、一気にまちづくりを進めようという勢いとうらやましさを大きく感じた視察となった。

・長野市よりも10万人も少ない福井市の開発（ハード）を視察し、確実に感じたのは、これらの開発に住民はどこまで機能性、利便性を感じているのかという点である。言い方は厳しいが、身の丈に合った開発なのか？という疑問である。

・今回、平日の視察ではあるが、人があまり歩いていない気がしたし、観光客もいない、外国人もいない、担当者に聞いてもインバウンドの恩恵は福井市にはあまりないそうで、震災と災害で町がリセットされたためインバウンド観光客が好むような歴史的、日本的な観光資源がほぼなく、唯一の「恐竜」がキラコンテンツになっているが、あまり外国人には人気がないそうだ。

・道路は広く、歩道も広くきれいになったが、それを活用する人のにぎわいというのがやはり課題ではないかと思う。

・しかしながら、ここまでの大規模かつ多くの開発が実現できたのも、福井県庁が近くにあって、県庁と連携し国からの支援を受けながら強力にすすめてきている故か、ハード面を進める行政と民間活力がうまく連携し、機能し始めているのがうかがえる。

・新幹線が開通することでここまで便利になったのだから、やはり観光コンテンツの醸成や、関係人口を増やし、移住したくなるようなソフト面での施策の展開を今後調査すべく、今後は、週末や、大規模なイベントがあるときにまた来てみたい。

・福井県と福井市のように、長野市はもっと長野県庁と中心市街地のまちづくりにおいて連携できないか？冬季オリンピック以降、これまでどのようなまちづくり連携事業が行われてきたのかを調査していく。福井市のようにもっと連携できると感じた。

【視察先②・8月19日（火）】・・・信濃川大河津資料館（新潟県燕市五千石）にて

【視察先③・8月19日（火）】・・・にとこみえーる館にて

大河津分水路改修事業「令和の大改修」について

【事業概要】

・大河津分水路は、信濃川の洪水を越後平野に入る前に日本海へ逃がすために、信濃川が一番日本海に近づく燕市大川津から長岡市寺泊の河口までの約10kmに渡って建設された人工河川である。

・大正11年（1922）8月25日に通水し、2022年に通水100周年を迎え、これまで幾度の洪水から地域を守り、地域の発展に寄与している。

【設立の経緯と過程】

・越後平野の地形特性として、低湿地で水はけが悪いうえに、海岸線は砂丘にさえぎられていることから、河川の水が海に流れにくい地形特性がある。このため、大河津分水路ができる前は、概ね3年に一度の頻度で堤防が決壊していた

・大正11年の分水路の建設後は、下流の洪水被害が激減するとともに排水性が向上。これにより新幹線、高速道路等の交通網が発達。土地の利用も高度化されることで、新潟市は本州日本海側唯一の政令指定都市まで発展。

・大河津分水路より下流域の信濃川流域は、全国一位の米の収穫量を誇る新潟県の約3割を占める穀倉地帯に発展することとなる。

【取り組み状況】

・大河津分水路の課題としては、入り口は広いが、出口が狭く、洪水が流れにくく、水位が上昇しやすく、堤防の決壊リスクが高くなってきたため、出口をさらに広げる必要が生じている。

・大河津分水路の河床低下を抑制する要の施設である「第2床固」は昭和6年(1931)の完成から約90年余りが経過し、老朽化が進行している。

・大河津分水路の河床低下リスクは生じ続けており、万一第2床固が倒壊した場合、上流の地すべりも誘発されるおそれがあり、河床安定性の確保が急務となる。

・大河津分水路が抱える課題を解決するため、平成27年度より事業に着手。

・しかし、令和元年東日本台風(台風19号)による信濃川の洪水により、信濃川水系では大河津、小千谷、立ヶ花等の観測所で既往最高水位を記録し、洪水の規模は戦後最大を更新。

・上流部の千曲川では、上田市諏訪形地区で堤防欠損、長野市穂保地区で越水により堤防の決壊が発生。信濃川中流では、小千谷市、長岡市で浸水被害が発生するなど、甚大な被害が発生。

・大河津水位観測所では、堤防の決壊の恐れのある「計画高水位」を約10時間も超過する大洪水となり、戦後最大洪水規模を更新。

→さらなる治水安全度向上のため「信濃川水系河川整備計画変更」(令和4年12月)となる。「令和の大改修」(山地部掘削+第2床固改修+の野積橋の架け替え)

【効果】

・新たな整備目標に対応すべく、信濃川河川改修事業(大河津分水路)の事業計画についても当初事業計画の3.3kmに対し、上流部4.9km区間を追加し、事業区間を8.2kmに変更。2015年(平成27年度)～2038年(令和20年)の24年間の事業となる。

【所感】

・当たり前のことだが、川は県をまたぎ繋がっており、山から海へと流れている。令和元年の東日本台風では本市の穂保で越水により堤防が決壊し、甚大な被害が及んだ、政令指定都市となっている新潟市でも計画変更を余儀なくされた、この災害を超える災害が未来に起きることを想定し、大規模かつ計画的に進められている実際の現場の視察で改めてその事業規模の大きさに驚いた。

・事業を進めるうえでの建設技術は当然ながら昔(大正・昭和時代)に比べ格段に上がっており、最新技術を結集しての工事は、燕市だけでなく、県、国他の自治体からの協力を得て進められている。

・大河津分水路の「令和の大改修」においての調査（測量、地質）→設計→工事→維持管理の各段階における個別の業務や工事の成果を3次元データ化し、業務間・工事間の工程調整等で積極的に活用されていた。DXを活用して工事監督、検査における生産性向上を目指し新たな工事スタイルでの試行を実施しており、まさに最先端の工事管理技術が実践されていた。

・それぞれの視察施設では、動画もいくつか用意され、わかりやすく事業の歴史や、仕組みを学ぶことができ、YouTubeなどでも公開されている。

・東日本台風災害で被害にあった本市も参考にすべき事業の進め方が随所に見られ、大変貴重な体験ができた。

以上

令和7年8月22日

新友会 寺沢さゆり 会長

報告者：市川 和彦

行政視察実施について

上記の件につき下記の通り報告します。

記

1. 福井市視察実施日時場所

日 時： 8月18日 13時30分～15時30分

場 所： 福井市

内 容： 「福井駅前再開発事業」について

本事業は、JR北陸本線、えちぜん鉄道 勝山永平寺線・三国芦原線の福井駅付近約6.3kmにおいて鉄道を高架化することにより、5箇所の踏切を除去し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業。

平成30年度の福井しあわせ元気国体・大会や平成34年度（2024年）の北陸新幹線福井開業を見据えて整備を行ってきたとのこと。

北陸新幹線福井開業を見据えた再開発構想など、民間主体のまちづくりの機運により、今後は、これらの建て替えにあわせた市街地環境の再整備や改善など、民間と行政が連携したまちづくりを進めて来ている。

なお、将来において、経済的・社会的な損失の発生が懸念される状況。

【所 感】

市街地を再整備するためには・・・。

市街地再開発事業などの事業手法を活用し、官民が連携し計画的に良好な市街地環境の形成を進めていくことが必要と思慮される。

市街地の再整備を進めていくためには、市街地再開発事業などの整備手法を活用し、官民が連携し計画的に、良好な市街地環境の形成を進めていくことが求められるとしていたが、長野市駅前開発についても類似する状況があると思慮される。福井駅前再整備の現地を見るに大規模な商業施設などが林立してきているが、福井市の経済状況・人口減少の現実を考慮した場合、継続性があるかどうか多少疑問を持った。

県庁所在地長野市の駅前に関しては人口減少時代を迎える中、経済活性化と住民活力の中心地と成る長野駅前 B-1 市街地再開発について熟慮する必要性を改めて強く認識した。

1・信濃川大河津資料館・にとこみえーる館

日 時： 8月19日 13時30分～16時00分

場 所： 長岡市・燕市

目 的： 令和元年東日本台風による洪水と同規模の洪水に対して家屋の浸水被害の防止又は軽減

○事業箇所：新潟県長岡市、燕市

○事業内容：放水路の拡幅（山地部掘削、第二床固改築、野積橋架替等）

○事業期間：H27年度～R20年度（24年間）

○全体事業費：約1,765億円（工事諸費、消費税込）

内 容：

大河津（おおこうづ）分水路は、河口から約55km、新潟県のほぼ中央部で信濃川が日本海に最も近づく地点の大河津から寺泊海岸までの全長約10kmを繋いだ人工水路。

信濃川の洪水を日本海へ流し、日本有数の穀倉地帯である越後平野を水害から守っている。

信濃川大河津資料館・にとこみえーる館信濃川河川改修事業（大河津分水路）は、昭和56年8月洪水に対して家屋の浸水被害の防止又は軽減を図ることを目的に、河口部3.3km区間の河道拡幅に平成27年度より着手。

その後発生した令和元年東日本台風（長野市長沼・豊野の洪水では、戦後最大規模を更新し、信濃川流域で甚大な被害が発生している）。

長野市の千曲川氾濫から12時間後に当該地での氾濫もあったとされる。

これを踏まえ、戦後最大規模である令和元年東日本台風洪水と同規模の洪水に対して、家屋の浸水被害の防止又は軽減を図るため、信濃川水系河川整備計画の整備目標を変更。

また、新たな整備目標に対応するため、現事業計画の3.3kmに対し上流部4.9km区間を追加し、事業区間を8.2kmに変更する必要性が生じたため、信濃川河川改修事業（大河津分水路）の事業計画を変更。

現在施工中の第二床固改築工事で、深掘れの応急対策や構造物本体（鋼殻ケーソン）の施工方法及び輸送方法の変更、鋼殻ケーソン搬入のための航路浚渫を行う必要性が生じ今となっている。

【所 感】

治水は紀元前からの人類最大の課題であり、また、河川管理は下流からとされる一般論もあるが、この事業に関して「令和20年度の完成を図っていく」とされる中、粛々と事業推進を改めて願うものである。

月 日	視 察 先	視察結果 (参考となった事項、課題、考察等)
令和7年 8月18日	福井市	(福井市概要) 令和7年8月1日現在 人口252,572人 (福井県全体の約1/3) 平成31年に中核市に移行。 現在の中心市街地は福井城郭 (江戸時代) であった 1945年7月福井空襲、1948年6月福井地震に見舞われ歴史的建造物が壊滅したが、コンパクトに整った整備ができています。 平成30年都市再生緊急整備地域に国の指定を受け東口・西口ともに行政が大きく関り官民連携し民間主体で再開発中であり今後も持続させていくために注力している。 40年かかり福井駅付近連続立体交差事業を福井県が施行した。 令和3年度には先行して完成した新幹線高架をえちぜん鉄道の仮線に利用することで、仮線用地が不要となり、踏切除去と交差道路整備を3年間前倒しで完了するなど、事業効果の早期実現に向けた工夫等が評価され全国市街地街路事業コンクールにて、国土交通大臣賞を受賞 (下記 視察資料から方針まとめ) ■計画背景 福井駅・城址周辺地区市街地総合再生計画平成30年1月 福井駅周辺及び福井城址周辺 (以下、「福井駅・城址周辺地図」という。) は、古くから県都福井の中心地として発展した。 戦災復興土地地区画整理事業の完了後も、行政が主体となり、福井駅付近連続立体交差事業、福井駅周辺土地地区画整理事業、福井鉄道駅前線延伸、市街地再開発事業、中央公園再整備など、都市基盤の再整備や都市機能の更新を進めており、これらの多くは、平成30年度の福井しあわせ元気国体・大会や平成34年度 (2024年) の北陸新幹線福井開業を見据えて整備。また、戦災、震災から約70年が経過し、戦災復興土地地区画整理事業にあわせて建設された建物の多くが更新時期を迎えていると考えられ、このような状況から、北陸新幹線福井開業を見据えた再開発構想など、民間主体のまちづくりの機運も高まっており、今後は、これらの建て替えにあわせた市街地環境の再整備や改善など、民間と行政が連携したまちづくりを進めていくことが重要。 こうした地区の再整備が進まない場合には、都市の競争力強化や都市再生が実現しないだけでなく、都市活動における安全・安心が確保されずに、都市中心部の災リスクが高まることにより、将来において、経済的・社会的な損失が発生することが懸念されます。このような課題に対応した市街地の再整備を進めていくためには、市街地再開発事業などの整備手法を活用しながら、官民が連携し計画的に、良好な市街地環境の形成を進めていくことが求められる。 福井駅・城址周地区を取り巻く状況2023年北陸新幹線福井開業予定。集約型都市構造への転換が必要。戦災、震災から約70年が経過。戦災復興土地地区画整理事業が実施された本地区内では、事業にあわせて建設された建物の多くが一斉に老朽化→都市機能の更新が

急務に。地区の再備が進まない・・・

●都市の競争力強化や都市再生が実現しないだけでなく、都市活動における安全・安心が確保されずに、都市中心部の災害リスクが上昇。→将来において、経済的・社会的な損失の発生が懸念される状況。市街地を整備するためには・・・市街地再開発事業などの事業手法を活用し、官民が連携し計画的に、良好な市街地環境の形成を進めていくことが必要。

■計画の目的と対象区域、計画期間

本計画は、建物の更新にあわせた適切な開発誘導を行い、土地の有効活用・都市機能の更新・市街地環境の整備等を推進することによって、福井駅・城址周辺地区を時代の変化に対応した魅力あふれる地区にし、もって中心市街地全体の活性化に寄与するための方針等を策定することを目的。計画期間は、10年間（2018年～2027年）

■4建築物の整備に関する方針

市街地再開発事業等による共同化・街区の更新を進めることにより、県都の顔にふさわしい魅力と都市機能を備えた建築物の整備を目指す。地区内で建築物を整備する際は、以下の方針で整備し、市街地環境の形成に取り組む。

- ① 都市機能の集約化と複合化●都市機能の集約化による複合市街地の形成今後の社会状況の変化の中で求められる都市機能や、郊外化●特色ある複合市街地づくりに向けた都市機能の導入した都市機能を中心部へ集約化し、利便性が高く、競争力を備●北陸新幹線福井開業を見据えた都市機能の導入えた複合市街地を形成し、新しいにぎわいの創出を図る。●快適なまちなか居住の受け皿となる居住機能と生活利便施設の整備
- ② 魅力あるまち並み、歴史が感じられるまち並みへの更新
県都としてふさわしい歴史や風格、魅力が感じられるまち並み景観の形成を図ります。緑豊かで風格あるビスタ景観（見通し景観）の形成お堀との関係性に配慮した施設計画●歴史的資源を活かした建物、外構デザイン
- ③ 活気やにぎわいが感じられる空間の形成●来街者が心地良く滞在できる空間の整備来街者が心地良く滞在できるよう、うるおいににぎわいを感じる ●おもてなし機能の導入じながらゆったりとした時間を過ごせる空間や、歩いて楽しい●通りに面した低層部へのにぎわい施設の導入活気とにぎわいが感じられる空間の形を図ります。●にぎわいを創出するためのオープンスペースの整備
- ④ 災害に強い建築物の整備
共同化事業等のまちづくりにおいて、防災体制の優れたビル、耐要性の高いビル、セキュリティの高いビルを整備し、災害に強い安全・安心な建築物の整備を図る。非常用発電機など災害時のバックアップ機能の備災害時の帰宅困難者対策として、一時受入れ施設、防災備蓄倉庫の軽備入居者の事業継続対策ニーズに対応した施設整備

■地区施設及び公開空地等の5整備に関する方針

市街地再開発事業等による共同化・街区の更新を進めることにより、県都の顔にふさわしい歩行環境や都市環境を構成する地区施設等の整備を目指す。街区の更新等とあわせて地区施設や公開空地等を整備する際は、以下の方針で整備し、市街地環境の形成に取り組む。

	①市街地の防災性の向上に向けた道路の整備災害時の避難経路確保や緊急車両の乗り入れ、消防活動の円滑化等のため、共同化事業等の建て替えに併せて幅員の狭い道路沿細街路沿道での建築物等のセットバック ◆街区再編とあわせた細街路の廃道・付け替え、適切な位置への貫通通路等の確保およびセットバックや行き止まり道路の解消を図る。 ②水と緑のうるおいが感じられる空間の形成共同化事業等の建て替えの際には、敷地内に公開空地等を確保し、中央公園・福井城址のまとまりのある緑や街路の緑とつながったうるおいある空間の創出を図る。 ◆オープンスペースが不足している地区での広場状空地の整備城址やお堀を望む心地良い空間の整備道路から緑や花が楽しめる環境づくり ③ まち歩きしたくなる歩行環境づくり 「歴史資源をつなぐ回廊」などの歩行者ネットワークにおいて、まち歩きしたくなる環境を整えるために、歩行者空間が不足している場所への歩道状空地の整備。 ④ 「歴史資源をつなぐ回廊」「福井城址へと誘う軸」などで歩行者空間が不足している場所への歩道整備。 ⑤ 駐車場・駐輪場の適正確保 建て替えや共同化事業等の際には、施設利用者分の駐車場・駐輪場を適正に確保するために、原則として当該建築物敷地内に駐車場・駐輪場の整備を図る。 ◆福井市駐車場条例の基準に沿った附置義務駐車場の整備施設利用者分の駐輪場の整備。 【所 感】 福井市は福井県と強固に連携し、福井駅周辺のまちづくりを官民連携で行政がリードし進める。 県独自で補助金を出すなど県が積極的に関わる。特に駅前の恐竜は一番高額なもので一億円（県予算）西口が県、県の情熱が凄いい。福井県と長野県を取り巻く状況が違うため仕方がないが羨ましい。恐竜の年間維持費は300万円とのことだが、市民からのクレーム等はないそう。恐竜をまちのシンボルといことは市民の理解を得ていることが行政の熱意に敬意を表する。リノベーション支援も積極的で県12億、市12億合計24億をエリア4つに分け補助。エリア別に補助金額に差はあるとのことだが様々なメニューがあり最大2億円から300万円とかなり強気な施策だが、活用は低調とのことで、賑わいの創出は簡単ではないことを改めて感じる。 駅周辺に市有施設を分散させ、まちの賑わいの創出を図り、交流人口増に力を入れている。特に冬季期間駅前スペースをアイスリンク場にするアイディアは本市でも取り入れ、Mウェーブ子ども無料の周知になるのではないかな。市民との合意形成が必要だが行政がブレずに推し進める強さも必要であると感じた。
--	--

行政視察報告書 (No. 2)

報告者氏名：松田 光平

日時：令和7年8月18日

◎福井市

◆福井駅周辺のまちづくり

福井市議会田中議長によるご挨拶、人口25万人の中核市であり、2024年に北陸新幹線が福井まで開通し、今回視察いただく中心市街地の再開発が課題となっている、恐竜を駅前に配置し、恐竜の町をPRするとともにソースカツ丼や蕎麦が名物であること、蕎麦が名物の長野にシンパシーを感じますとご挨拶された。

◎説明者「都市政策部 都市整備課（西岡様）」

福井の街の成り立ちとしては、戦国時代に柴田勝家が居城を築き、越前松平68万国の城下町。外堀などのお堀を埋めてまちづくりが行われたが、戦災や福井地震により市街地の90%が災禍に見舞われて、復興事業により碁盤の目のような開発がされた。

今回の駅前の再整備事業は、新幹線延伸により内閣府から整備地域として平成30年に指定されている。大きな特徴として、JR線路を2階に移動し踏切を立体交差することにより、渋滞解消と街の一体性を重視した。駅前広場の拡大再整備を平成15年に行った。バス乗り場や路面電車の乗り場が駅から離れており、乗り継ぎを解消するなどの再開発を行い、東口には観光バス乗り場を配置し機能分担をはっきりさせている。路面電車はえちぜん鉄道と福井鉄道の2路線が運行している。駅前に、路面電車が相互乗り入れを行うことで、コロナ後も順調に業績を伸ばしている。ハピリンの開業により歩行者の増加が確認されている。

A地区の開発では449億円でマリオットのホテルが建設される。

B 街区は来年完成予定 4 9 億円、南通り街区 R11 完成予定 1 7 0 億円と 3 事業を同時に行っている。

それぞれの建築では、セットバックし歩道区間を確保。歩道には移動販売車などの出店ができる設備も設けている。小規模の広場を数カ所に点在させることで回遊性を確保。福井は年間を通して天候のよくない日が多く、屋根付きの施設を作ることで賑わいの確保も狙っている。このような再開発事業は年月がかかるため、同時に民間との関わりを強化するための協議会を県と市が機能分担をした上で協働して「たのしみ」「くらし」「しごと」を作る活動を行う。既存の公共空間を活用した賑わいの創出、河川区間を使ったアクティビティーなどのイノベーションを行うための「まちなか再生ファンド」2 4 億円を県と市が折半してまちおこしをしている

<<考察>>

駅前の開発に巨額を集中していることに驚く、駅前以外は低層住宅が広がり、雨天が多い天候、特に冬期間の雪により屋外でのイベントなどは行えないので、屋根付きの施設を多くしている点と踏切を解消し町の一体化を図ったことを評価した。長野の街中開発でも地下空間などを有効利用するなどの工夫を凝らすべきだと考える。また、超高級ホテルに対して 2 0 億円の補助金を出したが、高級ホテルの利用者は長期滞在者が多く街への還元も少ないので、長野では超高級ホテルの誘致などは慎重に行うべきであると考えます。

日時：令和7年8月19日

◎長岡市

大河津分水路改修事業「令和の大改修」

新潟平野は6000年前には海で、信濃川などの堆積土砂で陸地となったため、標高差が少ないことから度重なる水害を発生させてきた。

新潟港へ注ぐ信濃川を長岡市の大河津から海へ直接つなぐ分水路は江戸時代から考えられていたが、明治時代から世界一といわれる工事が行われ、延べ1000万人の人員と世界でも最先端の技術を導入し、大正時代に通水された。その後は洪水が減少し、高速道路や新幹線が建設され新潟市は政令指定都市となるほど発展した。

しかし、分水地点では川幅が700m、河口部分は180mと狭くなっており、通水が悪いことと、山を削って河を開いたことで土砂崩れも多く、川幅を広げることと、100年前のコンクリートが老朽化し改修が必要となったために第二床固め改修を行っている。同時に河口拡大に伴い野積橋の架け替えも行っている。

<<考察>>

長野市では現在令和元年度台風災害による復旧復興工事が行われているが、災害以前、河川改修は下流側から整備するとの国の方針が通説となっていたが、令和の大洪水で千曲川の河川整備に取り組んでいただいている。信濃川の上流部分での改修と下流部分の改修はバランスよく行わなければ、全体の流下水量は増大できないため信濃川水系全体の安全確保のために上流部分と下流部分の市町村連携を強化するとともに、議会でも意見交換を積極的に行うべきである。